

阪神甲子園球場

Hanshin Koshien Stadium

No. 03-014-2010作成

改修・保存
その他

発注者	阪神電気鉄道株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

100年を超えて愛され続ける球場へ

■改修の企画

阪神甲子園球場は、高校野球の開催を目的として大正13年に建てられた日本で最初の本格的野球場である。以来、プロ・アマを問わず数々の名勝負・名シーンの舞台となってきたが、老朽化が進み全面的な見直しが必要となった。建替えも含めた検討を行った結果、甲子園球場の持つ歴史的価値を損なわず、次の世代に継承していくために現地でのリニューアル案が選択された。

そこで、「歴史と伝統の継承」を軸に「安全性の向上」「快適性の向上」「環境負荷低減」をテーマに、既存躯体を生かした耐震補強・設備の更新・スタンド観覧席の環境改善・新銀傘の設置・太陽光発電設備の設置などの大改修を行い、今後100年を超えて愛され続ける球場へ再生した。

■「銀傘」

イメージ継承を前提にシルエットはそのままに、規模を竣工当初に合わせて範囲を広げて新設し、観戦環境を向上した。また、高さを上げた銀傘の下にロイヤルスイート階を増設し、国内外の新築球場に見られる特別観覧室を装備した。

■「ツタ・外壁」

竣工時にコンクリート打放しの外壁が殺風景であったため植樹されたと言われるツタは、甲子園球場の重要な外観要素である。躯体補強のためにツタを一旦撤去する必要があったため、移植し再植樹することとした。



新しい球場の顔



1924年竣工当時



2004年リニューアル前



2010年竣工後（太陽光発電設備搭載）



2004年リニューアル前 ツタで化粧された外壁



2010年ツタ再植樹後 今後100年を超えて球場を見守る

■安全性の向上

築80年を超す建物の安全性向上のため耐震補強を行った。3階建てのRC構造である既存構造体の構造性能を精査し、耐震壁の新設・増厚を主体とする強度型の耐震補強とすることを全体的な方針とした。

補強内容としては、外壁面の耐震壁化、外付けフレーム補強および建物内部における耐震壁の新設・増厚である。併せて外壁面では、補強により既設RC部の劣化防止も図っている。

■地域環境との調和、地球環境への配慮

「天然芝と黒土」という自然と共にある甲子園の伝統を継承するとともに、地球環境に配慮した施設へと進化させるため、「環境負荷低減」もテーマに掲げている。これまでも井戸水のグランド散水及び球場内のトイレ洗浄水への利用等に取り組んできたが、今回のリニューアルでは、銀傘に降る雨水の利用も追加した。更に銀傘上部に太陽光発電設備を設置する事で電力使用量並びにCO₂排出量の削減を図っている。（机上計算で年間約193,000kWhが発電できる予定で、これは阪神タイガースが1年間に甲子園球場で行うナイトゲームで使用されるナイター照明の電力使用量に相当する。CO₂削減量は約133トン。）

■ナイター観戦を盛り上げるカクテル光線

新設照明塔でも混光で4300Kに近い温かみのある特徴的なカクテル光線を再現した。また、ハイビジョン撮影に必要な平均演色評価数Ra80以上を確保し、天然芝の緑色やユニフォーム等の色を鮮やかに、忠実に再現している。ランプは瞬時再始動が可能な高演色ショートアークメタルハライドランプを採用、瞬時電圧低下による消灯を防止して観客のパニック防止を図った。

■より楽しく観戦する

よりエンターテインメント性の高い球場へと進化するために様々な仕掛けをほどこした。グランドを見渡せるロイヤルスイート席の他、連日居酒屋さながらの盛りで賑う掘炬燵式観覧席を設けた。



ロイヤルスイートバルコニー席



掘炬燵式観覧席

■野球文化の振興に貢献

80年以上に渡る球場の歴史と、球場を舞台として生まれた数々のドラマを後世に伝えることを目的として甲子園歴史館が創設された。また、春・夏の高校野球を象徴する記念碑として、戦火で崩壊した野球塔を再建した。



再建された新野球塔



甲子園歴史館

設計担当者

統括：神道浩/建築：石井真由美、松本辰也、黒川宗範、中村秀矢、岩垂誠、本郷雅紀

構造：榎本弘之、守安一平/空調：西出英紀/電気：瀬戸口仁、岩城憲治

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（既存樹木の再利用、壁面緑化（ツタ）の再生）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（伝統と歴史の継承：銀傘、ツタ、カクテル光線、天然芝、黒土）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（野球文化の振興を目的とする甲子園歴史館の創設）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（太陽光発電、自然換気）
- LR2. 1. 水資源保護（銀傘雨水、井戸水利用）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（既存躯体の継続使用）

建物データ

所在地	兵庫県西宮市
竣工年	2010年
敷地面積	54,203m ²
延床面積	42,233m ²
構造	構造種別(RC造 一部 S造)
階数	地上5階

CASBEE評価

Aランク
BEE=1.7
2006年度版
自治体提出

